



制作
長野県高等学校文化連盟
新聞 専門 部

第 11 号



2018信州総文祭

担当：縣陵新聞部
赤沢輝・宮下菜々海・丸山敦也

カウントダウンボード点灯 信州総文祭開催100日前イベント

8月7日から始まる「2018信州総文祭」の開催100日前イベントが4月29日、山形村のアイシティ21で開かれた。イベントは午前の部と午後の部に分かれており、本番が少しでも盛り上がるように、どちらの部でも各部署やスタッフが発表を通してPRを行なった。

開会式では松本工業、岡谷工業、長野工業、駒ヶ根工業の4つの高校がそれぞれ制作した電光板が登場。それらは司会の掛け声でスイッ

チが入られると「残り100日」と点灯し、当日までのカウントダウンを始めた。

今年のNHK全国学校音楽コンクールの課題曲「ボジティブ太郎〜いつでも始まり〜」と今回の信州総文祭のテーマソングである「ここ



電光板は上田駅など、県内の主要施設に設置された



パフォーマンスをしている松本美須ヶ丘高校書道部員

に」を披露した。会場に訪れた一般の方々は「10人と少ししかないのに、（吹き抜けた）2階のこちらまで声が聞こえてきて驚いた」（曲が）まだ練習中と言っていたけれど、全然そんなことは感じなかった。すごい」などと話した。

音楽部の発表の後、松本美須ヶ丘高校の書道部によるパフォーマンスがあった。音楽をバックに部員たちが巨大な2枚の紙に、1枚目は先の音楽部も歌った「ここ」の歌詞を、2枚目は「平家物語」の冒頭部分をいずれも堂々と書いた。

会場を訪れていた一般の方からは「まさか今日ここで書道パフォーマンスをやっているとかわず、びっくりした」や、「筆の使い方が力強く、恰好良かった」といった声が聞かれた。

驚愕の女子戦隊登場

テックレンジャーショー

午前の部の最後は、飯田OIDE長姫高校のコンピュータ制御部による「高校戦隊テックレンジャーショー」だった。コンピュータ制御部は女子の比率が多く、今年は完全に女性戦隊となっており、「テックレンジャーカールス」という名乗りには驚きの表情を見せる観



クライマックスでのポーズ

客も少なくなかった。冒頭では地球征服を目論むウリヤン星人2人が現れ、巨大な風船

を「爆弾」と称して破裂させて観客の興味を引いた。中盤からは主役である5人のテックレンジャーが登場。筒を通すと形状や色が変わるステッキなどを用い、観客を驚かせながらウリヤン星人を撃退した。

ショーの後、記念撮影と握手会に訪れていた親子連れに話を聞くと、子どもは「おもしろかった」と無邪気に感想を述べた。

「分かりやすい振り付け」レクチャー

松本美須ヶ丘高校ダンス部発表



隊列の左右で向きを反転させて教えていた

午後の部は、松本美須ヶ丘高校ダンス部によるフラッシュモブから始まった。

なんの宣言もなしに音楽が流れ、キレイのダンスが始まり多くの人が足を止めた。ダンスが終わるころにはステージの周りだけでなく、2階にも観客が

集まった。ダンスを踊った松本美須ヶ丘高校ダンス部は、部員がなんと51人。部で話し合い、生徒が信州総文祭のテーマソングに振り付けをした。

今回は、その振り付けを100日前イベントにちなみ、会場にいる人100人でテーマソングに合わせて踊る、という企画が行われた。振り付けはダンスの経験のない方にも覚えやすいもので、30分ほどでレクチャー。実行委員の生徒はもちろん、買い物に来ていた小さな子供も一緒に踊っていた。